



東日本大震災で大津波に遭い、奇跡的に助かった愛海ちゃん(4才)。両親と妹が行方不明になり、一人ぼっちになった。「ままへ手紙を書く」と言い出した。1文字1文字、1時間近く書いた。「ままへ。いきているといいね。おげんきですか」。書いて疲れたのか、すやすやと寝入った  
2011.3.22 岩手県宮古市 (読売新聞 立石紀和 撮影)



飯館村役場では子どもたちのスクリーニングと甲状腺の内部被ばく検査が行われた。放射線被ばく検査から3ヶ月以上がすぎた7月、福島県では原発周辺の子どものうち約1150人のうち45%が甲状腺に被ばくしていたことが明らかになった。2011.3.30福島県飯館村 (野田雅也 撮影)



水を運ぶ男の子

2011年3月11日、日本は東日本大震災という未曾有の大災害に見舞われました。あの日から4年。日本ユニセフ協会は、被災地の方々とともに、子どもたちの健康を守り、教育を再開し、心の回復を展開して参りました。子どもたちが直面しているいくつもの苦難、そして子どもたちを守りながら必死に復興に向かって歩む被災地の方々の姿を目の当たりにし、私たちは、この災害の惨状と窮状、子どもたちの実情、皆さまからの募金によって展開された緊急支援並びに復興支援活動の様子を世界に伝えとともに、息の長いご支援を訴えていかなければならないと強く感じております。

4年前、大震災を取材した日本の代表的な新聞通信社と写真家が撮影した歴史の記録をユニセフの写真展という形でまとめ、日本のみならず、世界各国でご支援いただいた皆様に、広くご報告する機会を得ることができました。この大災害を忘れることなく、復興に向かって歩む被災地の方々を支援するために、今年もこの写真展を企画しました。

今回は、震災から4年を経た今、被災地の現状や復興の状況を撮影した写真も展示する予定です。震災直後から今年にかけて被災地へ視察や支援に出かけた人々の現地報告会もあります。またオープニング終了後、福島県伊達市大枝小学校の先生による講演会を開催します。

2015年2月



2013.秋 (布田久雄 撮影)

↑宮城県気仙沼市気仙沼港周辺↓



2014.12月 (気仙沼市観光課 撮影)

■ 会場のご案内

熊本市国際交流会館2F

〒860-0806

熊本市中央区花畑町4番18号

TEL 096-359-2020

■ 開館時間

9:00~20:00

